

平成30年度 南が丘小学校の学校自己評価

— 二学期取組の結果と三学期の途中経過 —

1 二学期取組の概要

(1) めざす子どもの姿

一学期に引き続き、取組によって実現をめざす姿として、次の6点を設定しました。

I 学び合い とともに高まり合う子	①進んで学習に取り組む子	②聴き合い伝え合える子
II 自分や身近な人を大切にする子	①進んであいさつをする子	②気持ちを考え行動できる子
III 安全と健康に気をつける子	①きまりを守る子	②ものを大切にする子

(2) 「めざす子どもの姿と達成状況評価シート」(以下「評価シート」と略記)

取組を進める上での教職員の情報共有のツールとして、4項目(「子どもの現状(取組前の状態)」「めざす子どもの姿」「主な取組内容」「達成状況」)で構成する「評価シート」を、めざす姿別に6シート作成しました(図1参照)。

平成30年度 学校自己評価 めざす子どもの姿と達成状況評価シート

②めざす子どもの姿	学期	③主な取組内容	④達成状況	
			評価方法	結果・考察
	3			
	2			
	1 (試行)			

※表中の()内は主な担当部署を表し、下線部は前学期からの変更内容を表す。

図1 評価シート

(3) 主な取組内容

一学期の結果を踏まえ、どのような取組を進めるのかを各担当部署で協議しました。以下は、そうして設定した、めざす姿別の主な取組内容です。下線部は新規の内容、それ以外は一学期から継続して取り組む内容です。括弧内は、担当部署を示します。

めざす子どもの姿		主な取組内容
I	①進んで学習に取り組む子	1 a 子どもの達成度を正確に把握し、それに応じた課題を与える。(英語・授業研究) b ペア・グループ対話を充実させる。(授業研究) c ペア・グループでの英語を用いたやりとり、コミュニケーションの場を設定する。(英語) <u>d 教員と子どもがめざす姿を共有し、具体的な目標・評価規準を教室掲示等ですす。</u> (英語・授業研究)

		2 体育の導入で体ほぐし運動を取り入れる。 <u>特に、跳躍力を伸ばすことにつながる活動を取り入れる。</u> (健康安全)
	②聴き合い伝え合える子	1 a 子どもの達成度を正確に把握し、それに応じた課題を与える。(英語・授業研究) b ペア・グループ対話を充実させる。(授業研究) <u>c 教員と子どもがめざす姿を共有し、具体的な目標・評価基準を教室掲示等で示す。</u> (英語・授業研究) d 聴く力を大切にした授業づくりを行う。(授業研究) 2 ペア・グループでの英語を用いたやりとり、コミュニケーションの場を設定する(英語) 3 語彙力を高める取組を行う。(英語・授業研究)
II	①進んであいさつをする子	あいさつ運動を実施する。(生徒指導) <u>※委員が各教室を回ってあいさつをする。</u> <u>※あいさつのレベル★を示し、どんなあいさつが良いのかを児童にわかりやすくする。</u>
	②気持ちを考え行動できる子	1 a 子どもの良い行動や考え方を見つけ、広める。(人権教育) b 思いやりの心を育む人権教育学習や集会を実施する。(人権教育) c 教員間で道徳の授業の交流を行い、研修活動を充実させる。(人権教育) 2 自己肯定感を高める活動(良いところ見つけ等)をする。(人権教育) 3 日々の課題を学級会等で扱い、よりよい生活をするための考える力、行動する力を育成する。(人権教育) 4 継続して教員が廊下やトイレなどの見回りをしながら声掛けをする。(生徒指導) <u>※次に使う人のためにどうすれば良いのかを写真等で示す。</u>
III	①きまりを守る子	1 登校・下校指導、地区別集会での一斉下校。 <u>子どもの振り返りシートを行う。</u> (健康安全) 2 「わたしたちのやくそく」をもとに学校全体での指導を行う。(生徒指導) <u>※廊下のすごし方、時間を守っての行動等</u>
	②ものを大切に にする子	1 給食委員からの呼びかけを行う。(健康安全) 2 清掃指導を徹底する。(生徒指導) <u>※掃除の仕方、掃除用具の使い方を掲示する。</u> 3 持ち物の確認及び記名の指導を行う。(生徒指導) <u>※できればその場で記名を指導する。</u>

表1 二学期 めざす姿別の主な取組内容

★ 表中のII①における「あいさつのレベル」とは、生活委員会の児童が設定したものです。あいさつの様態を、低水準から高水準へと順に「レベル1：あいさつをきちんと返す」、「レベル2：聞こえる声の大きさで返す」、「レベル3：目を見てあいさつ」、「レベル4：笑顔であいさつ」、「レベル5：みんなに自分からあいさつする」と5段階で表しています。本レベルは児童がいつも意識できるよう図示し、各教室や児童昇降口に掲示しています。

(4) 評価

一学期同様、各めざす姿の達成状況を学期末に次の2つの方法で評価しました。

①教員の観察による評価

各子どもの姿について、4件法で評価します。

4：「十分達成できている」と判断されるもの

各学級の85%以上の子どもが達成できている場合

3 : 「おおむね達成できている」と判断されるもの

各学級の70%以上85%未満の子どもが達成できている場合

2 : 「努力を要する」と判断されるもの

各学級の55%以上70%未満の子どもが達成できている場合

1 : 「一層努力を要する」と判断されるもの

各学級の55%未満の子どもしか達成できていない場合

②児童への質問紙調査

質問紙(児童には、「学習・生活ふり返しシート」の名称で示します。図2参照)は、学年別に6種類作成し、めざす姿に対応した6つの質問を設定しました。設問文は、一学期の結果を踏まえて各学年が設定した評価規準に基づいて作成しました。

児童には各設問に対し、「よくできた」「できた」「あまりできていない」「できていない」で回答させました。「あまりできていない」「できていない」と回答した児童には、その理由を記入させました。今後の取組構想の参考にするためです。

南が丘小学校 学習・生活ふり返しシート 5年生用	
5年()組()番 名前()	
二学期のあなたの学習と生活の様子についてふり返し、当てはまる記号(ア～エ)に○印を付けましょう。ウとエの場合は、その理由も書きましょう。	
① チャイムと同時に授業を始め、自主学習に積極的に取り組み、宿題を毎日提出した。	
ア:よくできた イ:できた ウ:あまりできていない エ:できていない	
※ウ・エの場合(理由)	()
② 友だちの意見を自分の考えと比べながら聞き、具体例をあげて自分の意見を伝えた。	
ア:よくできた イ:できた ウ:あまりできていない エ:できていない	
※ウ・エの場合(理由)	()
③ 友だちや身近な人に、自分からあいさつをした。	
ア:よくできた イ:できた ウ:あまりできていない エ:できていない	
※ウ・エの場合(理由)	()
④ 相手の立場に立って、声をかけたり行動したりした。	
ア:よくできた イ:できた ウ:あまりできていない エ:できていない	
※ウ・エの場合(理由)	()
⑤ ろう下や階段を静かに歩き、時間を守って行動した。	
ア:よくできた イ:できた ウ:あまりできていない エ:できていない	
※ウ・エの場合(理由)	()
⑥ 正しい方法でそうじをし、自分の持ち物を自分で管理した。	
ア:よくできた イ:できた ウ:あまりできていない エ:できていない	
※ウ・エの場合(理由)	()

図2 「学習・生活ふり返しシート」(5年生用)

2 二学期取組の結果

(1) 教員の観察による評価の結果

めざす姿別の各学年の結果を次表に示しました。「1（一層努力を要する）」と「2（努力を要する）」は、ゴシック体と網掛けで表示しました。また、各項目の下段に一学期の結果を示し、比較できるようにしました。

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	平均
I ①	3	3	2. 5	2. 5	2. 7 5	2. 5	2. 7 1
	3	3	3	3	3	3	3
I ②	2	2. 4	2. 5	2. 7 5	2. 2 5	3	2. 4 9
	2	2	2	2	2	2	2
II ①	2. 4	3	2. 5	2. 5	2. 5	2. 2 5	2. 5 3
	3	1	1	1	1	2	1. 5
II ②	2. 6	3	2. 7 5	2. 2 5	2. 5	3	2. 6 8
	3	3	3	2	3	3	2. 8
III ①	2	2. 6	2. 5	2. 5	2. 7 5	3. 2 5	2. 6
	3	3	3	3	3	3	3
III ②	3	2. 8	2	2. 7 5	3	3. 2 5	2. 8
	3	2	2	2	2	2	2. 2

表2 二学期 観察による評価の結果（下段の数字は一学期の結果）

一学期末、達成状況において課題が確認された I ②（聴き合い伝え合える子）と II ①（進んであいさつをする子）については、一定の改善が加えられたことが分かります。とりわけ後者は、1. 0 3 ポイントという飛躍的な向上が見られ、「1（一層努力を要する）」「2（努力を要する）」という状況を改善することができました。また、III ②においても、0. 6 ポイントの向上を図ることができました。

他方、その他の姿においては、一学期と同水準に留まる（II ②）か低下の傾向（I ①、III ①）にあり、今後に課題を残すことになりました。

(2) 児童への質問紙調査の結果

集計結果（全校の平均値）をグラフ化しました（図3参照）。めざす姿別の全校児童の内訳（「よくできた」「できた」「あまりできていない」「できていない」の比率）が示されています。一学期の結果も掲載し、比較できるようにしました。左側の濃いグレイの棒が一学期、右側の薄いグレイの棒が二学期です。

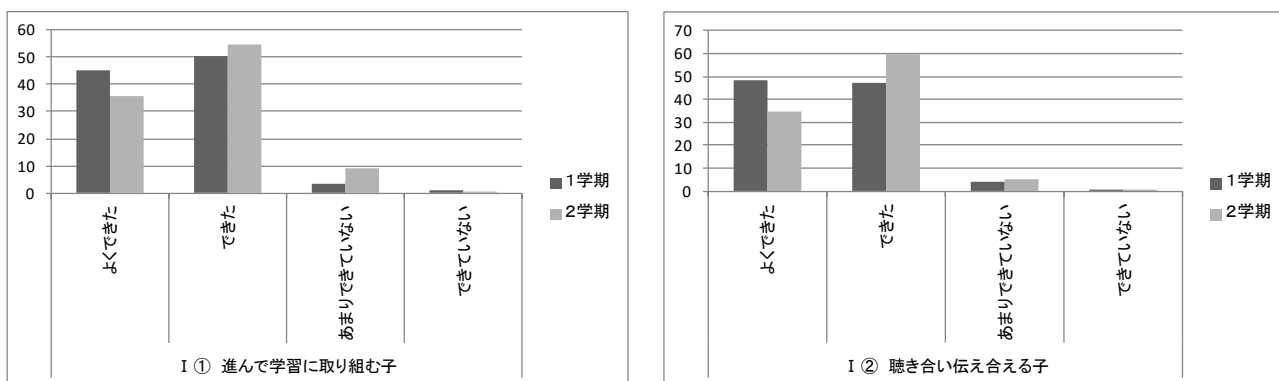


図3 (1) 二学期 児童への質問紙調査の結果 1

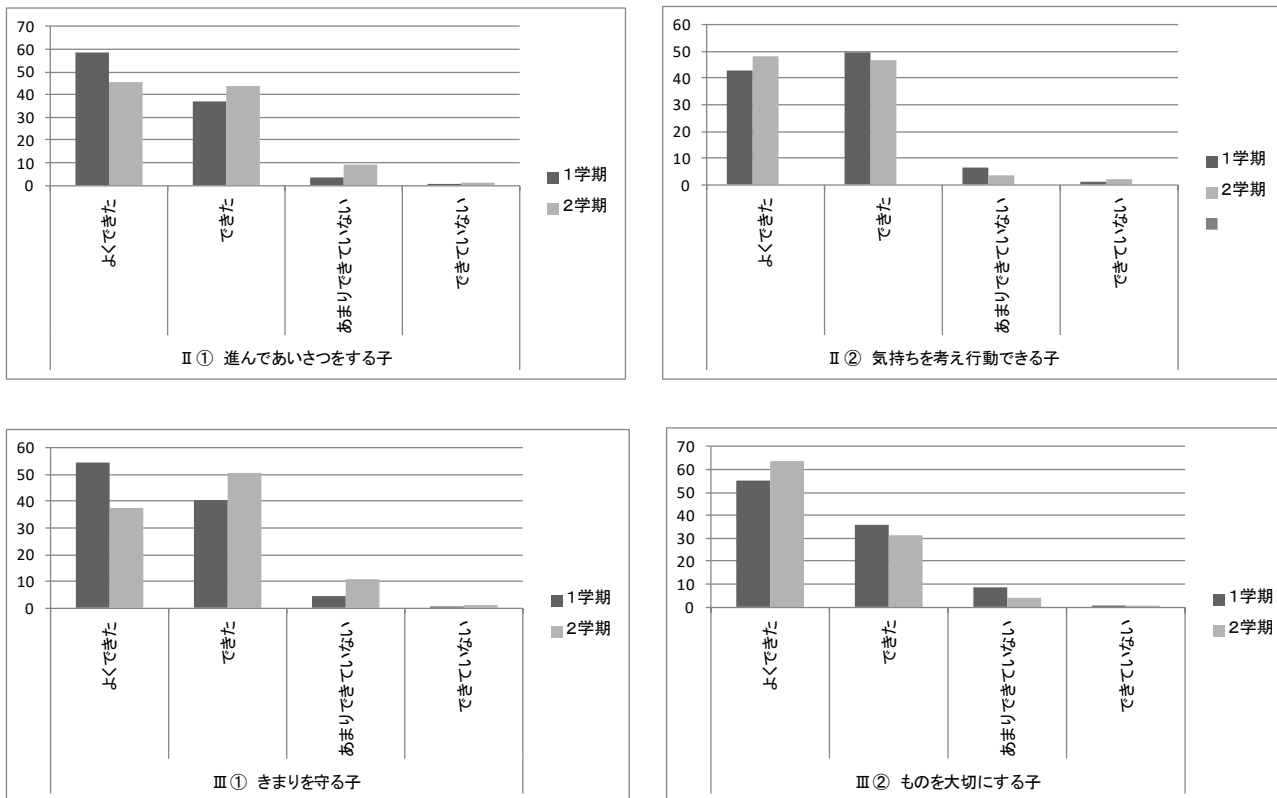


図3 (2) 二学期 児童への質問紙調査の結果2

一学期末、「教員の観察による評価の結果」と「児童への質問紙調査の結果」との間に大きな隔たりがあることが課題となりました。教員と児童においてイメージする姿が異なっていることが原因と考えられます。

そこで双方のイメージを近づけるため、各学年において具体的な評価規準を設定し、二学期始め、児童に示しました。取組は奏効し、僅かではありますが差を縮めることができました。また、4つの姿において、「よくできた」が減り、「できた」や「あまりできていない」が増えていることから、一学期と比べ、評価の正確さが増したと考えられます。

しかし、「教員の観察による評価」と比較して「児童への質問紙調査の結果」が高い傾向が依然として見られます。この傾向を「現状に満足していることの現れ」と見るならば、自己の一層の成長を志し、より高い理想をめざそうとする意識を喚起するような効果的な働きかけの工夫が必要と言えます。

3 三学期取組の途中経過

(1) 主な取組内容

二学期取組結果を踏まえ、現在、全校で下表(表3)の取組を進めています。下線は新規内容、それ以外は一学期から継続して取り組む内容です。

めざす子どもの姿		主な取組内容
I	① 進んで学習に取り組む子	1 a 子どもの達成度を正確に把握し、それに応じた課題を与える。(英語・授業研究) b <u>目的を明確にし、それに応じたペア・グループ対話を充実させる。</u> (授業研究) c <u>めざす姿の具体的な目標・評価基準を見直し、教室掲示等で示す。</u> (英語・授業研究) 2 体育の導入での活動を工夫する。休み時間に縄跳び活動を行う。(健康安全)
	② 聴き合い伝え合える子	1 a 子どもの達成度を正確に把握し、それに応じた課題を与える。(英語・授業研究) b <u>目的を明確にし、それに応じたペア・グループ対話を充実させる。</u> (授業研究)

		c <u>めざす姿の具体的な目標・評価基準を見直し、教室掲示等で示す。</u> (英語・授業研究) d <u>聴く力と伝わる話し方を大切にした授業づくりを行う。</u> (授業研究)
II	①進んであいさつをする子	<u>あいさつのレベルを活用した、あいさつ運動を実施する。</u> (生徒指導)
	②気持ちを考え行動できる子	1 a 子どもの良い行動や考え方を見つけ、広める。(人権教育) b 思いやりの心を育む人権教育学習や集会を実施する。(人権教育) c 教員間で道徳の授業の交流を行い、研修活動を充実させる。(人権教育) 2 自己肯定感を高める活動(良いところ見つけ等)をする。(人権教育) 3 日々の課題を学級会等で扱い、よりよい生活をするための考える力、行動する力を育成する。 <u>二人一人がつながり、成長を感じられる授業実践や学級の取組を行う。</u> (人権教育) 4 継続して教員の声掛けを行うとともに、 <u>委員会などの取り組みを通して意識させる。</u> (生徒指導)
III	①きまりを守る子	1 登校・下校指導、地区別集会での一斉下校での <u>注意喚起を行う。</u> (健康安全) 2 「わたしたちのやくそく」について、各学級を中心として学校全体で指導を行う。
	②ものを大切ににする子	1 給食委員から呼びかける。(健康安全) 2 清掃時間の使い方について各学級で指導を行う。(生徒指導) 3 持ち物への記名について、 <u>学級指導や通信などでの家庭への啓発を行う。</u> (生徒指導)

表3 三学期 めざす子どもの姿別主な取組内容

三学期は、I①1b「目的を明確にし、それに応じたペア・グループ対話を充実させる。」、II②3「一人一人がつながり、成長を感じられる授業実践や学級の取組を行う。」等の取組が示すように、児童への活動目的の明示や成長の実感が得られるような実践を工夫することによって、めざす姿へ向けた児童の意識喚起をねらった取組を進めています。

(2) 評価

2月上旬、次の評価を行います。

- ①教員の観察による評価 (全学級)
- ②児童への質問紙調査 (全学級)

(3) 結果の分析・考察と「年度末の子どもの現状」の確認

二学期の取組結果の分析・考察を行い、「主な取組内容」が適切かつ効果的であったかを検証します。同時に、本年度の取組の到達点である「年度末の子どもの現状」をめざす姿ごとに確認します。これが次年度の「評価シート」の①「子どもの現状 (取組前の状態)」となります。

(4) 本年度取組の総括

修了式において、学校長が本年度の取組を総括し、来年度も継続して取り組む項目と改善すべき項目について確認します。これを受け、担任からも本年度の取組を総括した具体的な話をし、来年度への児童の意欲を高めます。